

第1回 医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム 資料集




- 1 日時 令和2年11月13日(金) 11時～15時15分
 - 2 場所 国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟101室
 - 3 主催 一般財団法人福祉教育支援協会 重度障害者・生涯学習ネットワーク
 - 4 後援 東京都
 - 5 内容 司会 引地達也(一般財団法人福祉教育支援協会・みんなの大学校)
- 11時00分～ 主催者挨拶
- 飯野順子(重度障害者・生涯学習ネットワーク)
小林美保(文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室長)
- 11時20分～ 「訪問型の医療的ケア児者の生涯学習の実践と課題」
- ①「訪問大学おおきなき」 相澤純一(NPO 法人訪問大学おおきなき理事長)
 - ②「訪問カレッジ Enjoy かながわ」 成田裕子(NPO 法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会理事長)
 - ③「みらいつくり大学校」 土畠智幸(医療法人稲生会理事長)
 - ④「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」 荻田知則(愛媛大学教育学部特別支援教育講座教授)
 - ⑤「ひまわり Home College」 藤原千里(NPO 法人ひまわり Project Team 理事長)
- 12時30分 昼食休憩
- 13時30分～ シンポジウム
- 「『訪問型の医療的ケア児者の生涯学習』の持続可能な仕組みにむけて」
- (1) 話題提供 「東京都日野市の『日野市障害者訪問学級』」 13時30分～
- ①日野市教育委員会生涯学習課 白川和彦さん
 - ②日野市障害者訪問学級学生の保護者 石坂有香さん
- (2) シンポジウム 14時～
- 司会 飯野順子(NPO 法人地域ケアさぽーと研究所理事長)
- シンポジスト
- 成田裕子(NPO 法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会理事長)
下川和洋(NPO 法人地域ケアさぽーと研究所理事)
引地達也(一般社団法人みんなの大学校代表理事)
荻田知則(愛媛大学教育学部特別支援教育講座教授)
- (3) 講評 宮崎英憲(全国特別支援教育推進連盟理事長、東洋大学名誉教授、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」座長)
- 15時～ 閉会挨拶
- 引地達也(一般財団法人福祉教育支援協会)

第1回 医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム 御挨拶

文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室長
小林 美保

文部科学省HPでは、障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。
是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm

障害者の生涯学習 

障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた取組

1. 現状と課題

障害者は学校（特別支援学校・学級等）を卒業した後の学びの場が少ない

【障害者の学校卒業後の状況】
特別支援学校から高等教育機関への進学率は約4%、ほとんどの障害者が就職又は障害福祉サービス（就労移行支援・就労継続支援）などに進む。

障害福祉サービス
60.3% / 就職30.1%
【計90.4%】



【地方公共団体の状況】

都道府県 なし94.3%

市区町村 なし95.9%

障害者の生涯学習活動に関する窓口を有する自治体は都道府県5.7%、市区町村4.1%と極めて少ない。

【障害者の状況】

障害者当事者へのアンケート調査によれば「生涯学習の機会があると思う(34.3%)」「仲間と学び合う場や学習プログラムが身近にあると思う(28.3%)」となっており、いずれも低い割合となっている。

2. 社会情勢の変化

平成26年「障害者の権利に関する条約」の批准等
→障害者の生涯学習機会の確保が明記

平成28年「障害者差別解消法」の施行
→国・自治体の合理的配慮の義務化

3. 推進体制の構築

国

平成29年4月、大臣メッセージ『特別支援教育の生涯学習化に向けて』を発出するとともに、当時の生涯学習政策局（現 総合教育政策局）に「障害者学習支援推進室」を新設。教育・スポーツ・文化芸術に係る省内関係課と厚労省（障害福祉、障害者雇用対策）と連携し、障害者の生涯学習に係る推進体制を構築

自治体

都道府県、市区町村に「障害者学習支援担当」窓口の設置を依頼

→ 平成31年3月に有識者会議の報告として『障害者の生涯学習の推進方策について（報告）』を公表し、各主体別に施策の方針を明確化

4. 施策のターゲット

「共に学び、生きる共生社会」の実現や、学校卒業後も障害者が学び続けることができる環境整備に向けて、以下の観点で取組を推進

①学校から社会への移行期における自立や社会参加に向けた学習機会の充実

②生涯のライフステージを通じた学びや交流の充実

5. 主な取組（令和2年度）

文部科学大臣表彰の実施	障害者の生涯学習支援活動を行う個人・団体を表彰 ※令和元年度は64件を表彰
障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究	障害者の生涯学習にかかるモデルを開発 ※令和2年度は自治体、大学、社福等、計16団体に委託
地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究	地方公共団体を中心とした地域連携コンソーシアム形成モデルの構築 ※令和2年度は計4団体に委託
共に学び、生きる共生社会コンファレンス	学びの場の担い手の育成や学びの場の充実等を目指して開催 ※令和2年度は全国7ブロック
「超福祉の学校」フォーラムの開催	障害者の生涯学習の普及啓発フォーラムを障害者本人等の参画を得て開催
人材育成の在り方検討会	社会教育、特別支援教育、障害者福祉等の分野で障害者の生涯学習を推進する人材育成等について検討
読書バリアフリー法にもとづく取組の推進	基本計画を策定し、視覚障害者等の読書環境の整備を推進

学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の開催

○趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准（障害者の生涯学習の確保が規定）や平成28年4月の障害者差別解消法の施行、平成29年4月の文部科学大臣メッセージ（特別支援教育の生涯学習化に向けて）を契機とする取組等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務である。

今後、人生100年時代を迎え、超スマート社会（Society5.0）に向けた経済社会の変化が一層加速する中で、誰もが必要な時に学ぶことのできる環境を整備し、生涯学習社会を実現するとともに、共生社会の実現に寄与するため、学校卒業後の障害者の学びに係る現状と課題を分析し、その推進方策について検討を行う有識者会議を設置する。

○検討事項

- (1) 学校卒業後における障害者の学びの推進方策に関する検討
- (2) その他

○検討の主なスケジュール

平成30年2月設置～
平成30年9月 論点整理
平成31年3月 最終報告

○委員一覧 ※◎座長、○副座長（五十音順、敬称略）

朝日 滋也	東京都立大塚ろう学校校長
菅野 敦	東京学芸大学教授
是松 昭一	国立市教育委員会教育長
田中 秀樹	社会福祉法人一麦会理事長
田中 正博	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク事務局長、 全国手をつなぐ育成会連合会統括
田中 良三	愛知県立大学名誉教授
津田 英二	神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授
戸田 達昭	シナプテック株式会社代表取締役
松田 裕二	千葉県教育庁生涯学習課主幹兼社会教育振興室長
○松矢 勝宏	東京学芸大学名誉教授、 全日本特別支援教育推進連盟理事長
箕輪 優子	横河電機株式会社人財・総務本部室ダイバーシティ推進課
◎宮崎 英憲	全国特別支援教育推進連盟理事長、東洋大学名誉教授
山田 登志夫	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常務理事
綿貫 愛子	NPO法人東京都自閉症協会役員、 NPO法人リトルプロフェッサーズ副代表

(オブザーバー)

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課
同 職業安定局 雇用開発部 障害者雇用対策課
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

3

有識者会議最終報告のポイント

「障害者の生涯学習の推進方策について

—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）

学校卒業後の障害者が学ぶ場が十分でない

目指す方向性

- **誰もが、障害の有無にかかわらず
共に学び、生きる共生社会の実現**
- **障害者の主体的な学びの重視、個性や
得意分野を生かした社会参加の実現**

取り組むべき施策

- **国、地方公共団体、特別支援学校、大学、民間団体が
役割分担し、多様な学びの場づくりを推進**
- **教育、福祉、労働等の分野の取組と連携の強化が重要**

第3章 障害者の生涯学習を推進するための方策

1. 学校卒業後における障害者の学びの場づくり (3) 障害の特性を踏まえた特に考慮すべき事項

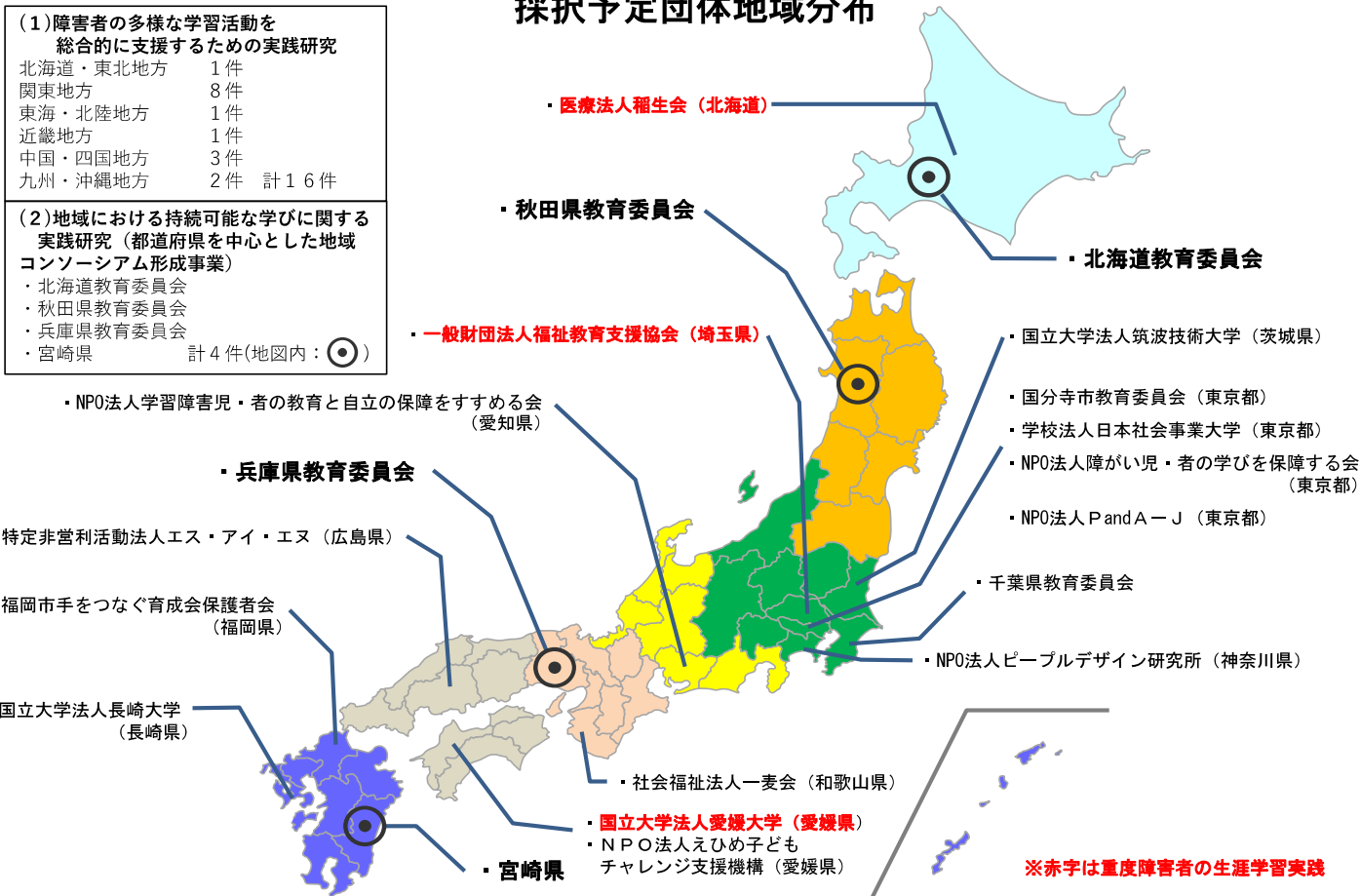
(重度・重複障害者の学び)

東京都重症心身障害児(者)を守る会の各分会の協力を得て、地域ケアさぼーと研究所が実施した調査(平成28年)によれば、重度・重複障害者の生涯学習ニーズとして、音楽を楽しむことや健康・体づくり、アロマセラピー、読書活動等が挙げられた。重度・重複障害者が、学校卒業後も生活年数を重ねることで感情の表現なども豊かに成長することに鑑みると、ICTを活用した意思伝達、意思表示装置を使用した学習や、タブレット端末を活用した音楽に関する学習、身体活動等に関するプログラム開発を行っていくことも重要と考えられる。

(略)

重度・重複障害者にとっての学習は、人や社会とのつながりを持つ上でも大変重要なものである。本人や保護者、支援者には、学校に就学している間にできていた学習や周りの人との交流を卒業後も継続したいとの希望が極めて強いことも念頭に置いて、学びの場づくりを進める必要がある。

令和2年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」 採択予定団体地域分布





趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、**学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けた取組を推進**することが急務。

学校卒業後の障害者の社会参加・活躍を推進するため、これまでの民間団体主体の実践研究の成果の活用・横展開を図り、**都道府県を中心とした地域コンソーシアム形成**による持続可能な生涯学習支援体制を構築し、併せて、新たに**市区町村の社会教育施設等を主な実施主体とした生涯学習プログラム**を開発・実施し、**多様な学びの場の拡充**に取り組む。そのうえで、実践研究事業等の成果の普及・活用や実践交流等のための**ブロック別コンファレンス、障害理解促進に向けた啓発フォーラム等を実施**する。

さらに、**今般のコロナ禍**において、学校卒業後の障害者が健常者と同様の学びの機会を得るために、**よりきめ細かな支援が必要**。

事業内容

1. 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究〔125百万円〕

(1) 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築〔57百万円〕

▶ 都道府県と大学等との連携による体制整備・人材育成〔6箇所〕

- ◆ 都道府県（政令市）が中心となり、大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等が参画する障害者の生涯学習のための「**地域コンソーシアム**」を形成。
- ◆ **学びの場の拡大**に向けて**市区町村職員向けの人材育成研修モデル**を開発・実証。

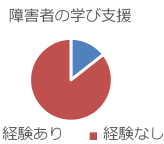
(1)都道府県レベルのネットワーク構築 (2)市区町村レベルの学習機会拡充

(2) 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進〔53百万円〕※新規

▶ 市区町村による障害者を包摂する学習プログラムの開発〔35箇所〕

- ◆ 障害者の生涯学習のノウハウが乏しい**市区町村**が、実績のある**民間団体等と組織的に連携**し、主に**公民館等の社会教育施設における、障害当事者のニーズや地域資源を踏まえた新たな「生涯学習プログラム」**を開発・実施。その成果の普及・活用を目指す。

※現状・課題：現在の本取組の中心は民間団体を中心。H30年度調査では、**障害者の学びの支援経験のない公民館等は85%超**（右記グラフ参照）。



(3) 取組の周知・普及・連絡協議会の開催〔15百万円〕

全国で展開する取組の**情報を集約・発信するポータルサイト**の構築等を推進。

2. 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究〔10百万円〕

障害者が一般的な学習活動に参加する際の阻害要因や促進要因を踏まえ、**読書バリアフリー法施行後の視覚障害者等の読書環境の整備に向けた課題把握や、コロナ禍における障害者の生涯学習の実態に関する調査研究**を実施。

成果や課題を共有

3. 障害者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組〔28百万円〕

- ◆ 社会教育と特別支援教育、障害者福祉の各分野における**障害者の生涯学習推進の人材育成に関する有識者検討会**を設置。
- ◆ 実践研究事業等により開発された「生涯学習プログラム」の成果普及や実践交流等を行うため、**全国をブロックに分けてコンファレンス（実践交流会）**を実施。
- ◆ 障害の理解促進や共生社会実現に向けて**障害当事者の参画による障害理解啓発フォーラム**の実施。



※写真：「超福祉の学校～障害をこえて共に学び、つくる共生社会フォーラム～」

期待される成果 ◎各地域で障害のある人の**社会参加と活躍を推進**
◎地域における**支援人材の増加と障害への理解を増進**

目指す社会 ◎障害のあるなしに関わらず生きやすい**共生社会**

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究

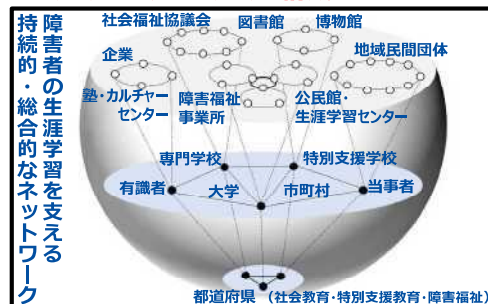
令和2年度事業全体予算額116百万円
うち、本事業予算は委託先3~4箇所×約9百万円を予定



取組内容の概要

- ◆ 学校卒業後の障害者の学びの場を拡充するため、**地方公共団体（主に都道府県）が教育部局と福祉部局の垣根を越えて中心となり、大学等の高等教育機関や社会福祉法人、地元の企業、NPO団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域連携コンソーシアム」**形成の**モデル構築**を行う。
- ◆ **参画する機関がそれぞれ得意とする役割を担う**ことで、地域全体として**持続可能な障害者の生涯学習を推進する体制づくり**をねらいとする。
- ◆ **社会教育施設や大学等の教育機関、社会福祉法人等が協力し、障害者が参加できる学びの場の提供**や、大学等による履修証明制度の活用など、**障害者の自立や就労も見据えた新たな学習プログラムの開発・実証等**の取組を進める。
- ◆ **学びの場づくりの拡大や質の向上に資する人材育成の研修プログラムの開発・実証等**を進める。
- ◆ **障害のあるなしに関わらず参加できる講座等の情報収集と提供を可能とする仕組みを構築**するとともに、**関係機関や障害当事者等が参加するコンファレンス等の開催**を通じて、本事業の成果の普及・啓発を進める。

地域連携コンソーシアムの構成イメージ



関係機関の役割（例）

- 地方公共団体… 全体調整（事業の事務局）、コンソーシアム会議の設置、事業計画の策定、教育部局と福祉部局の連携による域内の情報集約と提供。コンファレンスの開催等による普及・啓発 等
- 高等教育機関… 講座の企画・助言、講座開設（オープンカレッジ開設）、履修証明プログラムの作成、講師・指導者の派遣、学生ボランティアの派遣・養成 等
- 民間企業等 … 寄附講座の提供、障害者雇用に向けた講座の企画・助言、障害者雇用の推進協力（マッチング協力） 等
- 地域民間団体… 講座の企画・ノウハウ共有・助言、多様な障害者の学びのニーズ対応（講座提供）、障害当事者・保護者の学びのニーズの把握と共有 等
- 社会福祉法人… 障害者福祉サービスを通じた講座の提供、大学等の講座の運営支援、障害者の就労支援、ボランティア人材の養成協力 等

期待される成果（アウトプット）

- 持続的・総合的な学びの支援の仕組みを構築する
- 関係機関に人的・金銭的な課題がある中で、**学びの場を支える持続的な支援を実現**する。
 - 関係者の縦割りを超えた**ネットワーク構築**に向けてコンソーシアムが自律的に運営される。

- 障害者が様々な学びの機会に参加できる
- 障害者が参加可能な**学びの場が拡大**し、**学びの成果を示すことができる**ようになる。
 - **学びの場に関する情報が収集・展開**されることで、障害者の学びへの参加が促進される。

期待される成果（アウトカム）

- ◎各地域で障害のある人の**社会参加と活躍を推進**
- ◎各地域における**支援人材の増加と障害への理解を増進**
- ◎障害のあるなしに関わらず生きやすい**共生社会の実現**

コンソーシアム構築事業（北海道教育庁の例）

事業の必要性

- H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要
- R1年7月障害者の生涯学習の推進方策について(文科省通知)→【都道府県に期待される取組】障害者の多様な学習活動の充実等

事業の概要

- ①関係機関(大学等の高等教育機関、障害者雇用を行う企業等、障害者雇用に知見のある社会福祉法人等)や生涯学習の機会を提供する民間団体等が連携し、コンソーシアムを形成・運営する。
- ②効果的な学習を支援するための具体的な学習プログラム・実施体制等に関する実践研究。

①地域連携コンソーシアムの設置

- 関係機関が連携した体制の構築→事務局(道教委生涯学習課)
- 関係者の資質向上→道教委社会教育主事を対象にした研修会の実施⇒市町村教育委員会等職員対象研修会の実施へ
- 関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施(年1回)
- 障害者の自立や社会参加、ニーズ、生涯学習の機会提供等についての現状と課題を把握するための実態調査



②学習支援に関する実践研究

- ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発
- ④障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑤障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑥障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

・ICTを活用した学びの支援に関する実践研究
【北海道教育庁根室教育局】②⑤

・市町村における障害者の生涯学習推進体制構築に関する実践研究
【北広島市(石狩教育局)】②④⑤⑥

・みらいづくり研究所による実践研究【医療法人稲生会】
・構成団体による実践研究(今後事業内容等を検討し実施)

成果 ○各地域で障害のある人の社会参加と活躍を推進 ○各地域における支援人材の増加と障害への理解を増進
○障害のあるなしに関わらず生きやすい共生社会の実現へ

9

共に学び、生きる共生社会コンファレンス<令和2年度実施>

趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実することが急務である。**

そこで、**障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国ブロック別に開催し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。**障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成、障害者の学びの場の充実**を目指す。

参加者

- 150~300名程度を想定
 - 障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など
- ⇒都道府県・市町村職員(障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等)、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者(NPO等)、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

コンファレンス実施内容

例1 障害者の学びのニーズや学びの成果としての社会参加機会の創出に向けて、障害者本人による学びの成果発表や思いの表現等の機会を設定

例2 障害者の学びの場の担い手を育成するための優れた実践事例の発表や、ワークショップ等の実施

例3 各テーマ(学びの場の類型、障害種、実施主体等)ごとの分科会の開催、関係者のネットワーク構築に資する交流機会を設定

⇒今年度はオンラインによる開催を基本とし、一部ブロックで対面形式も併用予定



コンファレンス
(Conference)

会議、協議会
関係者間で共有する問題
について協議すること

目指す成果

- 多様な学習、参加、交流の方法の知見共有
- 障害の社会モデルに基づく障害理解の促進
- 関係者同士の学び合いによる担い手の育成
- 全国各地における障害者の学びの場の拡大

誰もが、障害の有無にかかわらず
共に学び、生きる共生社会の実現

〈令和2年度実施〉共に学び、生きる共生社会コンファレンス各ブロック開催概要

※主会場があるブロックもオンラインを併用して実施予定

No.	実施団体等名	事業名 テーマ	開催日・開催方法
1	【北海道ブロック】 北海道教育委員会	北海道共生社会コンファレンス 「コロナの時代における社会教育の実践を通じたコミュニティの可能性」	日程: 令和3年2月6日(土) 主会場: なし(オンライン開催)
2	【東北ブロック】 宮城県教育委員会	共生社会コンファレンス 東北ブロック 「『共生社会をつくる』ということ～誰もが自己を肯定できる社会になるために私たちにできることは～」	日程: 令和2年11月26日(木) 令和3年1月30日(土) 主会場: なし(オンライン開催)
3	【関東甲信越ブロック】 一般財団法人福祉教育支援協会	共に学び、生きる共生社会コンファレンスIN 関東甲信越	日程: 令和3年1月17日(日) 主会場: 国分寺市本多公民館
4	【東海・北陸ブロック】 NPO法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会	障害者の学びの場づくりコンファレンス in AICHI	日程: 令和3年1月9日(土) 主会場: 愛知みずほ短期大学 ※別会場にて連動企画開催予定
5	【近畿ブロック】 兵庫県教育委員会	近畿ブロック 共に学び、生きる共生社会コンファレンス 「障害があってもなくても、もっと自由に楽しく学ぶ～共に学び、生きる共生社会に向けて」	日程: 令和3年1月29日(金) 主会場: 神戸大学ほか ※サテライト会場設置予定
6	【中国・四国ブロック】 国立大学法人愛媛大学	共に学び、生きる共生社会コンファレンス 中国・四国ブロック 「〇(まる)のつどい～危機を乗り越え、共に考えよう! 障害理解の促進、障害者の生涯を通じた学びの場づくり～」	日程: 令和2年12月5日(土)、 6日(日)、12日(土) 主会場: なし(オンライン開催)
7	【九州・沖縄ブロック】 宮崎県	共に学び、生きる共生社会コンファレンス 九州・沖縄ブロック	日程: 令和3年1月23日(土) 主会場: なし(オンライン開催)

詳細は、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」特設ウェブサイトをご覧ください。

URLはこちら → <https://www.kyoseishakai-conference.com/2020> QRコードはこちら →



11

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）概要

目的（1条）

視覚障害者等（＝視覚障害、発達障害、肢体不自由等の障害により、書籍について、視覚による表現の認識が困難な者）の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進し、障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを旨とする。

基本理念（3条）

- ・アクセシブルな電子書籍等（デジタイズ図書・音声読み上げ対応の電子書籍・オーディオブック等）が視覚障害者等の利便性の向上に著しく資することに鑑み、その普及が図られるとともに、視覚障害者等の需要を踏まえ、引き続き、アクセシブルな書籍（点字図書・拡大図書等）が提供されること
- ・アクセシブルな書籍・電子書籍等の量的拡充・質の向上が図られること
- ・視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮がなされること

国・地方公共団体の責務（4条・5条）

- ・国は、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する施策を総合的に策定・実施
- ・地方公共団体は、国との連携を図りつつ、地域の実情を踏まえ、施策を策定・実施

基本的施策（9条～17条）

- | | |
|------------------------------------|--|
| ①視覚障害者等の図書館利用に係る体制整備等（9条） | ⑥端末機器等・これに関する情報の入手支援（14条） |
| ②インターネットを利用したサービス提供体制の強化（10条） | ⑦情報通信技術の習得支援（15条） |
| ③特定書籍・特定電子書籍等の製作の支援（11条） | ⑧アクセシブルな電子書籍等・端末機器等に係る先端的技術等の研究開発の推進等（16条） |
| ④アクセシブルな電子書籍等の販売等の促進等（12条） | ⑨製作人材・図書館サービス人材の育成等（17条） |
| ⑤外国からのアクセシブルな電子書籍等の入手のための環境整備（13条） | |

※地方公共団体は、③のテキストデータ等の提供促進部分・④・⑤・⑧を除き、国と同様に施策を講ずる。

文部科学大臣・厚生労働大臣が定める基本計画で具体化（7条）、地方公共団体は計画策定の努力義務（8条）

政府に対し、施策の実施に必要な財政上の措置等を義務付け（6条）

協議の場等（18条）

文部科学省、厚生労働省、経済産業省、総務省等の関係行政機関の職員、国会図書館、公立図書館、大学等の図書館、学校図書館、点字図書館、上記②のネットワークの運営者、特定書籍・特定電子書籍等の製作者、出版者、視覚障害者等その他の関係者による協議の場を設ける等

12

訪問型の医療的ケア児者の
生涯学習の実践と課題
NPO法人訪問大学おおきなき
—どんなに重い障がいがあっても
伝えたい気持ちがある—

2020年11月13日(金)
「第1回医療的ケア児者の
生涯学習を推進するフォーラム」
NPO法人訪問大学おおきなき
相澤純一



1

「生涯学習」とは？

- ・「学校の教育だけではなく、その人が**自分の好きな方法で**、一生、学習を続けていくこと。」

←光村教育図書「小学新国語辞典」より

- ・「学習者の自由な意志に基づいて、**それぞれに合った方法で**、生涯にわたって学習していくこと。」

←三省堂「大辞林」より

<参考>

生涯教育 = 生涯を通じて教育の機会を保障すべきであると考える成人教育。

2

目指している社会像

- ・「誰もが生きているだけで祝福される」そんな人と人とのつながりを
つくりたい…

(NPO法人フリースペースたまりば理事長
川崎市子ども夢パーク所長 西野博之氏)

- ★「奇跡ではない命など、この世にあるのだろうか」
(2019.2.28 朝日新聞「天声人語」より)

・「この子達に教育って意味があるの？」(実際に30年前教育現場で耳にし、
絶対に忘れられない)というような発言を聞かないですむ社会

→障がいが高くても自己実現をめざせる社会

- ★一人ひとりに自己実現の形があるのでは…それは生涯にわたって！
- ←一人ひとりに合った自己実現のために必要な手立て(ICTも当然必要にな
ってくる)を考える

3

訪問大学おおきなきの歩み①

- ▶2014年4月1日学生2人で立ち上げ。(外部講師3名)
～盲ろうの卒業生の方の生涯学習のニーズもあり、
合体する形にする。**4年制**とする。
- ▶2015年
～学生6名、外部講師5名。アドバイザーを石川政孝
先生(帝京大学)にお願いします。
- ▶2016年まで3年間は、中央ろうきんの**助成金**で運営。
- ▶2017年
～**会員制**とし、多くの方の支援を受ける形で継続。
4年目、初めての文化祭を行う。一般参加も含め
120名参加。

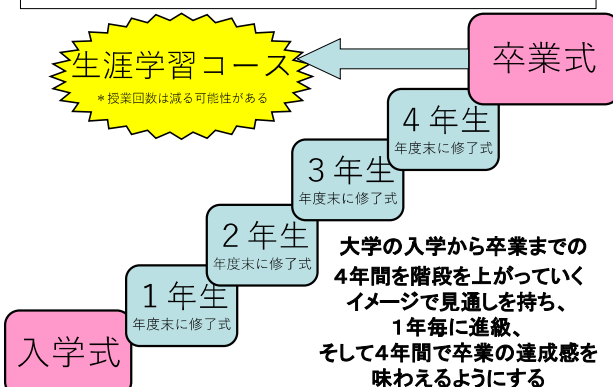
4

訪問大学おおきなきの歩み②

- ▶2018年4月
～初めての卒業生5人、うち4名が学びの継続を希望
し、**生涯学習コース**を開講。
- ▶2019年4月3日～
・任意団体から**NPO法人**訪問大学おおきなきとして
新たにスタート。
・社会的な信頼を得られるように。
・長く継続していけるように、組織をしっかりとしたもの
にする。
・**支援者(会員)**を拡大し、根を広げていく。

5

訪問大学「おおきなき」の流れ



6

NPO法人訪問大学おおきなきの運営

- ・入学金2,000円、年学費(正会員費3,000円)
- ・授業料(*コロナ禍の感染防止対策に伴い、現在減額中)
 - ★4年制 1回(1時間半~2時間) 1,500円
 - ★生涯学習コース1回(1時間半~2時間) 2,000円
- ・授業回数 月1~3回
- ・講師(謝礼金3,000円、交通費支給)⇒ 7名
- ・運営資金は会員を増やし、会費収入で補い、支える。
 - ★正会員(年3,000円)★賛助会員(1口 1,000円)
 - ★企業・団体会員(1口5,000円)

7

学生の様子(2020年度)

- ★1~4年生:6名(20代4名、30代1名、50代1名)
 - ・気管切開 4名
 - ・胃ろう 5名
 - ・人工呼吸器使用 4名(酸素療法3名)
- 通所回数→月0~1回:4名、週4~5回:2名
- ★生涯学習コース:4名(20代4名)
 - ・気管切開 3名
 - ・胃ろう 2名
 - ・人工呼吸器使用 2名(酸素療法1名)
- 通所回数→月0~1回:2名、月3~4回:1名、週4~5回1名

8

授業について

- ★回数→月1~3回
- ★内容→自己表現や自己実現につながるもの
 - ・国語(絵本の読み聞かせ等)
 - ・俳句を基礎から学ぶ
 - ・音楽・音楽療法(楽器の演奏や作曲等)
 - ・英語(要望があって開始する)
 - ・創作・絵画・調理
 - ・身体の手組み
 - ・視線入力装置やOAK、iPadを使った授業
 - ・社会体験やコミュニケーション
- *「大学」と呼んでいるが、まだ授業を自由に選択できる状況にはない。

9

訪問大学での「学び」の様子

- ・本人の発信から始まるコミュニケーション
 - ＜例＞トーキングエイドの絵文字を使用。
- ・好きなことを一番自由に(楽に)できる方法で
 - ＜例＞好きな曲を好きな楽器で演奏する
- ・スイッチや視線で、介助なしで可能になることがある。
 - ＜例＞絵を描くことに夢中になれた
 - ＜例＞自分で好きな音楽を選んで聴く
- ・本人の興味・関心に合った教材選択
 - ＜例＞SOUNOS VALKA、電子キーボードの演奏

10

目で描く喜び、目で奏でる喜び

- ★PCに視線マウスアプリのインストールが必須
(miyasukuEyeConLT2(有料)またはGazePoint(無料)等)
- ＜目で描く＞
 - ・センサリーアイFX 「色を塗る」(有料)
 - ・Tux Paint(無料) →
 - * Tux PaintConfig(設定ツール)の操作でマウスクリックのダブル操作にチェックを入れることで、マウスのドラッグ操作が視線で可能になる。
- ＜目で奏でる＞
 - ・センサリーアイFX<レトロドラム><ピアノ>(有料)
 - ・Look to Learn <ギター><シロフォン>(有料)
 - ・SOUNOS VALKA(無料)
 - * 改造マウス等でスイッチ操作と併用している
(ピアノ、電子ピアノ、セレスタ、ピコフォン、エレキギター等の音を出せる)

11

日本特殊教育学会第58回大会(2020福岡大会) 準備委員会企画シンポジウム2

アートが拓く豊かな世界

- ・インクルーシブな社会をめざす我が国の特別支援教育にとって、特別な教育的ニーズのある人の自己表現と社会参加を可能にする手だてとして、アートが持つ力は大きい。アートは、自己表現に制約のある人にとり、障壁を感じることなく、自己の内面や才能を表現する手段となり、また表現プロセスが心を開放していくこともあるだろう。さらにアートを通じて、他者や社会に働きかけ、周囲の人々や、地域、社会を変えていった例は、日本でも多くの地域で見られるようになってきている。――後略――
(【企画趣旨】福岡教育大学 納富恵子)

12

それぞれの想いを形にしたい→授業の成果発表

- 文化祭は、4年に1度の計画→次回2021年は難しい?
- ブログ「おおきなき交流広場」での発表。
- 音楽的なものは YouTubeでの発表、俳句は投句。
- 絵画(視線入力による)は日本肢体不自由児協会の美術展のコンピューターアートの部に応募する等



「スーホの白い馬」

「でんでんむしのかなしみ」
(2019年東京都知事賞受賞)

13

～課題1 * 講師の確保～ 授業が選べない! 増やせない!

- 年度末には学生・保護者向けアンケートを実施
- 「授業回数を増やしたい」「こんな授業もして欲しい」という要望。遠隔地からの進路相談や入学希望も受けている。
- その要望に応えることがなかなかできていない
この課題をクリアするためには・・・
- 講師の確保や財源の確保が必須となる。
- また、各地域での訪問大学、訪問カレッジの誕生を望んでいる。
- 重度の方の学習支援なので講師の専門性が強く求められるし、ほとんど収入にはつながらないので、募集方法や人選が難しい。また、授業数が増えると運営が厳しくなる矛盾を抱えている。

14

～課題2 * 安定化・制度化に向けて

- 訪問大学おおきなきは、安定した収入を得る事業をしていない。
- ↓
- 学費や授業料はひまわりHomeCollegeの要項を参考に決めていただいた。会費(学費)・授業料を徴収する。講師には謝礼金や交通費を支給している。
- ↓
- 長い目(10年、20年)で見て、安定した自立採算で運営していきたい。そのために、会費や寄付収入を安定させるとともに、継続的な支援を受けられる道や制度化への道を探っている。
- ↓
- 持続可能な仕組みづくりを

15

以前制度化されていた例(東京都大田区の場合)

あなたの「学びたい」を応援します!

社会教育訪問学級受講者募集

障がいがあるために外出が困難な方などを対象にご自宅に講師を派遣します。
この機会にぜひ生涯学習に挑戦してみませんか?

【対 象】 次のすべての条件を満たす方

- (1) 区内在住で15歳以上(義務教育中の方を除く)
- (2) 公共交通機関を利用しての外出が困難
- (3) 「学びたい」意欲がある
- (4) 過去5年間に2回以上訪問学級を受講していない

【実施科目】 (1) 期間 平成24年7月～平成25年3月末
(2) 内容 受講者の希望する科目を学習します。
パソコン・音楽・パソコン・福祉・英語など

- (3) 時間 1回あたり90～120分
- (4) 回数 年間6回まで
- (5) 費用 無料(教材費は受講者がご負担ください。学習教材は受講者が準備してください)

【申込方法】 郵送・ファックス・電話のいずれかの方法でお申込ください。
※申込書は大田区ホームページからダウンロードするか、社会教育課にお問合せください。

【申込締切】 平成24年4月27日(金) 6時

申込・問合せ 社会教育課 TEL: 5744-1447 FAX: 5744-1539

16

おおきなき

- メール: taiju06wa01@b07.itscom.net
- HP: <http://home.v07.itscom.net/ookinaki/> ←検索
- ブログ: おおきなき交流広場
http://blog.livedoor.jp/ookinaki_koramu/
- ブログ: 障がい者せんせい
<https://ameblo.jp/yupikorin0120>
- FB: 大田区・おおきなき
- YouTube→ookinaki

17

文部科学省 令和2年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
 ～第1回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム～

話題提供 訪問カレッジEnjoyかながわの実践 <2019年立ち上げ、事業2年目>

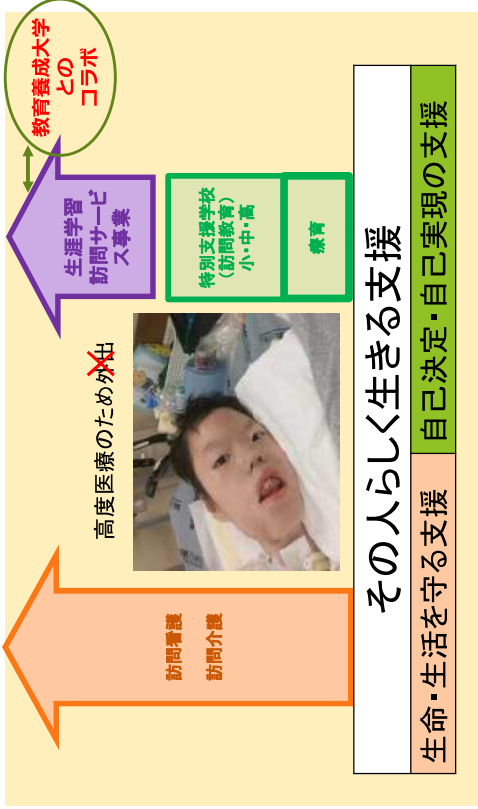
目的

展開

課題

NPO法人フュージョンコムかながわ
 ・ 県肢体不自由児協会

生涯学習の訪問サービス事業とは (訪問カレッジエンジョイかながわ)



NPO法人フュージョンコムかながわの事業紹介

〒221-0844 横浜府神奈川地区沢渡+2 神奈川県社会福祉会館内
 電話 045-311-4972 FAX 045-324-8985
 E-mail info@fujion.com.jp
 Web http://www.fujion.com.jp

● 当事者会 ● ミュージカル観劇

● 社会参加事業 ● 空の旅 (沖縄・北海道) ● 配膳食事業

研修事業
 ・ 略吸引等研修
 ・ 摂食研修
 ・ 意思伝達支援勉強会

親の会の支援
 神奈川県心身障害児者父母の会連盟
 神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会

車いす空の旅(沖縄・北海道)にて
 神奈川県障害者文化事業団主催
 視覚体験型研修「ホップアップ」
 と2泊3日の旅をエンジョイします。

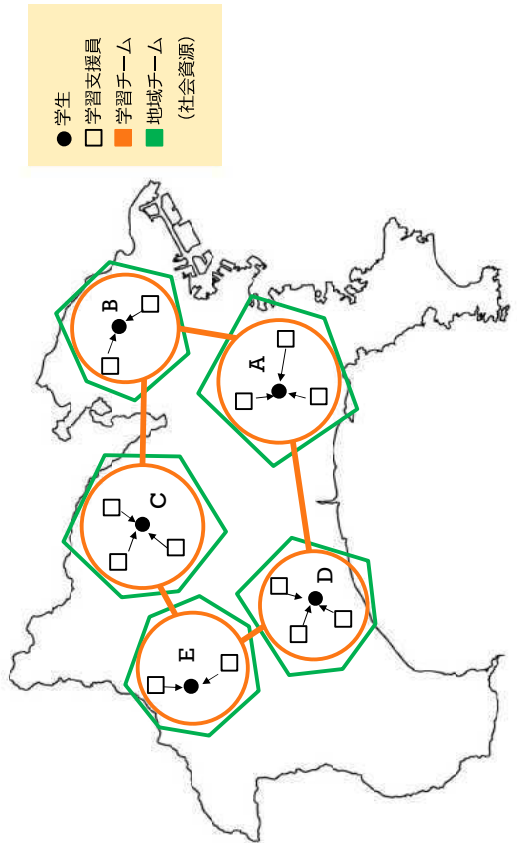
インターナショナルカレッジ2Fラウンジ
 若い世代の会員を中心に集まり、
 団体のめざす、やがては個人
 的、さらにはその活動範囲を広げ
 ています。

「その人らしく生きる支援」
 生活学習の訪問サービス事業とは
 (訪問カレッジエンジョイかながわ)

「その人らしく生きる支援」
 iPadや形骸入力装置の体系的な
 学習会や子どもや大人の共通
 ティーチング等の製作講座を行うこと
 ができる。

「その人らしく生きる支援」
 医療的ケアを必要とする方への介護受付けで
 いる人(家族)を支援するための「施設訪問専門研修事業」
 を開催しています。 養成施設(研修) 養成施設(研修) 養成施設(研修)

事業の展開



課題と今後

- ① 多くの人に生涯学習の機会を!!
- ・だれもが気軽に希望できるように、授業料(年間5,000円)と低くしている。
 - ・HP等を使い、事業の様子(彼らの生きる力)を発信する

- ② 学習支援員の確保
- ・学生増にともない、支援員の確保が大きな課題

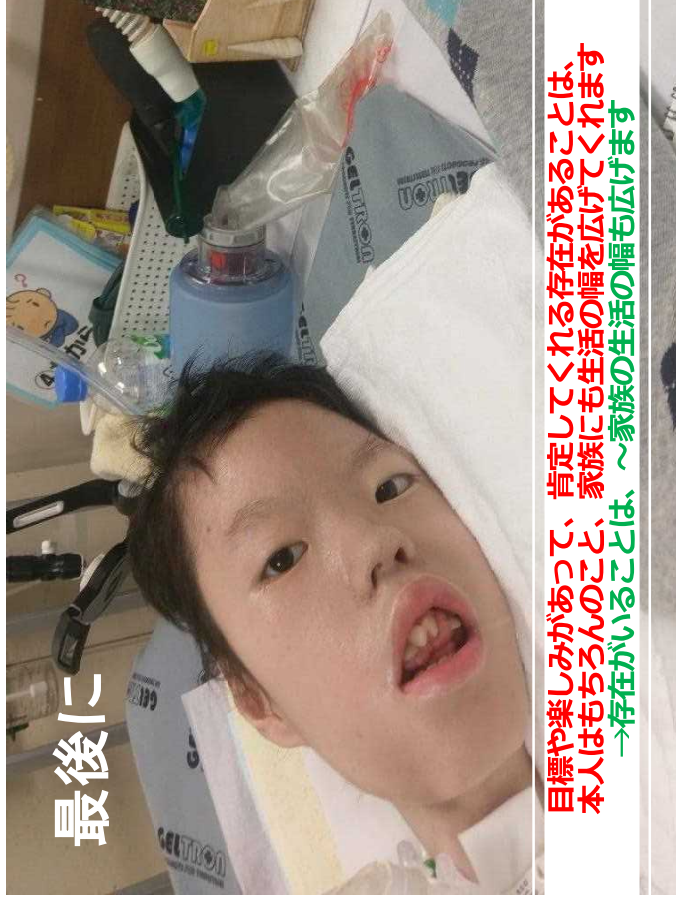
- ③ 支援員の研修
- ・指導内容や学生の反応はLINEで共有参考にする。支援員全員対象研修会年2回開催
 - ・訪問教育や相談支援業務経験者で構成され支援員自身の学びへの意欲は高い。一方、視線入力等のICTを活用する指導は人的にも物理的にも研修が必要

- ④ 安定的な運営
- ・最低限、学習支援員の交通費と教材費は確保
 - ・ICT機器や共通教材の購入と保管場所

<今後の目標>

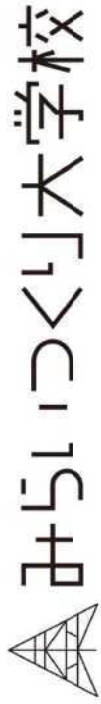
- ・1か月に1回は支援できる人を30人確保する
- ・賛同者・協力を増やし、認定NPO法人へと成長する

最後に



目標や楽しみがあつて、肯定してってくれる存在があることは、
本人はもちろんのこと、家族にも生活の幅を広げてくれます
→存在がいることは、～家族の生活の幅も広がります

学校卒業後における障害者の学びの場



FUTURE CREATING UNIVERSITY

2020年11月13日

第1回 医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム
医療法人稲生会 理事長/みらいくりくり研究所 所長 土島智幸

医療法人 稲生会

- 生涯医療クリニックさっぽろ (在学人工学協会の専任および暫定(期間限定))
- 専門の看護師がご自宅での療育を支援します 訪問看護ステーションくまさんの手
- 身体障害者福祉法人の介護施設を支援します 居宅介護事業所 Yiriba (イリバ)
- 在宅医療を行っている訪問看護の一環として 短期入所事業所 どんぐりの森
- 相談室 あんど&&

・患者/利用者は全て医療的ケア児・者
・8割以上が人工呼吸器使用
・小児 6割 成人 4割
・札幌市及び隣接市町村を対象(人口250万人程度)
・多職種協働

私たちの理念
Dプロジェクト
A Project for Making a Better Society WITH Disabled People
困難を抱える人々とともに、より良き社会をつくる

3つのDと共に

- Diversity 多様性**
人は皆「多様性」をもちつ存在。さまざまな個性をお互いに認め合うことを尊重します。
- Dialogue 対話する**
お互いのことを知るために、とことん話し合うことを基盤とします。
- Design デザイン:創造する**
想像力と創造力により、新たなアイデアを創造する。変革を大切にします。

稲生会では「困難を抱える人々とともに」上記3つのDによるサイクルを回していくことで「より良き社会」をつくっていきます。

2013.11の法人開設とともに、医療的ケア児の母籍を主な対象とした生涯学習の場「みらいくりくり学校」を開始

2017～みらいくりくりに参加していた母親達がNPO法人を設立、医療的ケア児の放課後等デイサービスを開始

法人開設者(発表者)が2014年度～北海道大学教育学部博士課程(社会教育・生涯学習研究室)に在籍

デザイン(創造する): 社会が必要としていることで、他の組織がやっていないことに挑戦する組織文化

A Project for Making a Better Society WITH Disabled People
困難を抱える人々とともに、より良き社会をつくる

はじまり (2018年(初年度)の活動) → 2019年(2年目)の活動 → 2020年(3年目)の活動 (これから)

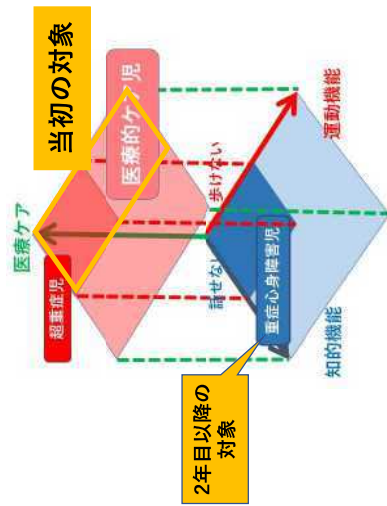
障害の有無に関わらずともに学ぶ場

文部科学省実践研究事業

みらいくりくり大学 宮田直子 教務主任

「重症心身障害児である息子が高校を卒業した後も学ぶことができる場をつくりたい」

みらいづくり大学の「参加者」と「学びの形態」



- 参加者
 - 医療法人稲生会が関わっている障害当事者 = 医療的ケア者
 - 当初は知的障害の無い方から
 - 2年目以降で重症心身障害者を対象としたプログラムを開始
 - 最終目標：障害当事者、支援者、地域住民の誰でも
- 学びの形態
 - 協同学習
 - 「空間」と「時間」の共有
 - 「特別支援教育の生涯学習化」ではなく、「社会教育の実践」として

はじまり (2018年(初年度)の活動) 2019年(2年度)の活動 2020年(3年度)の活動 これから



初年度はゲスト講師を招いての講義形式からスタート

はじまり (2018年(初年度)の活動) 2019年(2年度)の活動 2020年(3年度)の活動 これから

回	テーマ	講師	当事者参加	傍聴/職員	参加合計
1	オリエンテーション	—	8	11/15	31
2	障害当事者運動の歴史	障害当事者団体	9	8/14	24
3	社会で「信頼」はなぜ必要とされるか	法学部教授	7	7/19	33
4	障害の社会モデルからケアの論理へ	社会福祉学部教授	8	13/16	37
5	どのようにして24時間介護を勝ち取ったか	ALS当事者	6	1/13	20
6	ここにこうしているわたし	慶応大学教授	6	6/18	30
7	映画「こんな夜更けにバナナかよ」	前田哲監督	6	11/17	34
8	中間まとめ	—	6	5/14	22
9	成人の学習とは何か	教育学部教授	6	11/16	33
10	社会保障制度の世界史	法学部教授	7	7/9	23
11	当事者研究的視点からみる障害者の自立	熊谷晋一郎教授	8	5/14	27
12	発表会準備	—	4	1/7	12
合計	各回平均 当事者 6.8 傍聴 5.8 稲生会 14.3	合計平均 27.1名	81	69/172	326



受講生の興味関心に応じたテーマで発表



2年目は「講義を聞く」から「探究する」(研究)へ



重症心身障害者とともに学ぶプロジェクトも始動
⇒「言語」ではなく「場」を共有する学び？



研究テーマ

- 「障害者の娯楽について」
- 「いのちについて～自死と生きがいの側面から～」
- 「ウェアラブルカメラを用いた『リアル当事者目線』の研究」
- 「不安の当事者研究」

みらいつくり大学の振り返りと展望について

- 「研究が中心であることで自らが学ぶことができた」
- 「集まって話す時間が増えたのでお互いのことをよく知ることができました」
- 「講義形式のほうが初めて来る人にとっては参加しやすいと思う」



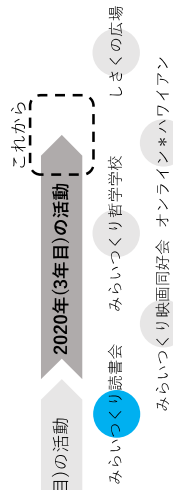
2020.3.30 オンライン読書会の試行

「『会場での開催と遠隔参加の保障』だと、直接会場に参加している人たちが議論の中心で、遠隔参加の人はただ見ている形になっている。だから、**全員が遠隔参加**という形態で開催したい」



新型コロナウイルス感染症による影響

- 文部科学省実践研究事業の3年目（最終年度）に入ったタイミングで、緊急事態宣言が全国で発令された
- みらいづくり大学の母体である医療法人稲生会では、4月中旬より分散勤務体制へと移行した（事務所出勤者 2〜3割）
- 医療的ケア者は感染罹患によるリスクが大きく、「リアル空間で集まる」ことの弊害が大きいと考えられた
- 3月に実施した「全員オンライン参加」による活動の意義を実感していた
- ⇒ **みらいづくり大学の活動を「全オンライン化」へ**



回	日付	課題図書
1	4月24日(金)	カフカ『変身』
2	5月1日(金)	カフカ『変身』
3	5月8日(金)	梶井基次郎『檸檬』
4	5月15日(金)	梶井基次郎『檸檬』
5	5月29日(金)	芥川龍之介『蜘蛛の糸』
6	6月12日(金)	芥川龍之介『犬と笛』
7	6月26日(金)	芥川龍之介『西方の人』『続西方の人』
8	7月10日(金)	トルストイ『イワンの馬鹿』
9	7月31日(金)	トルストイ『イワン・イリツチの死』
10	8月19日(木)	カレル・チャペック『ロボット』
11	9月9日(水)	カレル・チャペック『ロボット』



<https://futurecreating.net/works/tag/みらいづくり読書会/>

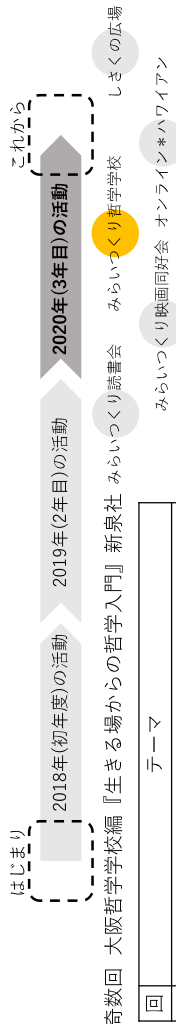


回	日付	課題図書
1	5月20日(水)	『世界一キレイなあなたに』
2	5月27日(水)	『パターソン』
3	6月3日(水)	『湯を沸かすほどの熱い愛』
4	6月9日(火)	『羅生門』
5	6月16日(火)	『人魚の眠る家』
6	6月25日(木)	『四月の永い夢』
7	7月2日(木)	『ブタがいた教室』
8	7月16日(木)	『男はつらいよ 奮闘編』
9	8月7日(金)	『学校』
10	8月27日(木)	『日曜好日』
11	9月18日(金)	『リトル・ミス・サンシャイン』



「主演の方がとても可愛らしくて素
 敵
 「感動しました。とても人ごとは
 思えませんでした。とても人ごとは
 興醒めでした。」
 「あんなに面白かった。あの展開は」

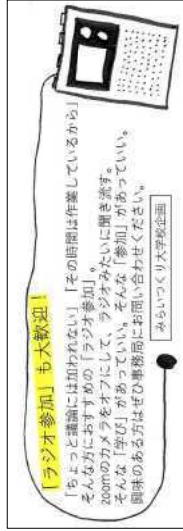
<https://futurecreating.net/works/tag/みらいづくり映画同好会/>



回	テーマ
1	生きる場からの哲学とは
3	民衆思想とその方法について
5	砂漠の中のオアシス - 生きる場で哲学するためのルール-
7	現代の仕事とアイデンティティ - 対人・対人サービス労働のため-
9	「子どもを産む」 ことに関する事柄 - 自然から自由へ-
11	「食の哲学」入門 - 「食と宗教」について考える-
13	生と死とおひとりさまを考える
15	若き生活者たちに一学ぶことの意味について
17	新しい会社組織と幸福な生 - 幸せの味への一つのアプローチ-
19	障がい者の生き方
21	農から現在を見る
23	存在しない仏に祈る - 浄土仏教は生きているか



多様な学びの「形態」



- ・参加希望者のニーズに応じて様々な参加形態が生まれた
- ・従来の意味での「空間」と「時間」を共有しない「協同学習」のあり方？

	リアル空間	ヴァーチャル空間	時間
「協同学習」	○	△ 周辺参加	○
オンライン	×	○	○
ラジオ参加	×	△ 音声のみ	○
録画視聴	×	△ 同時性なし	×
しさくの広場	×	△ ホームページ	×

結語

- ・医療的ケア者、家族、支援者、支援者の「協同学習の場」を、講義、研究、オンライン活動という形で展開してきた
- ・参加者の「いのち（生命・生活・人生・生涯）の差し迫り」が、固有な学びのテーマと多様な学びの「形態」を生んだ
- ・従来の意味とは異なる「空間」と「時間」を共有する「協同学習の場」が生まれた
- ・世界的な「いのちの差し迫り」に直面する状況において、新たな「学びの概念」を探究してゆきたい

文部科学省受託事業
障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究

訪問カレッジ・オープンカレッジ @愛媛大学

愛媛大学教育学部

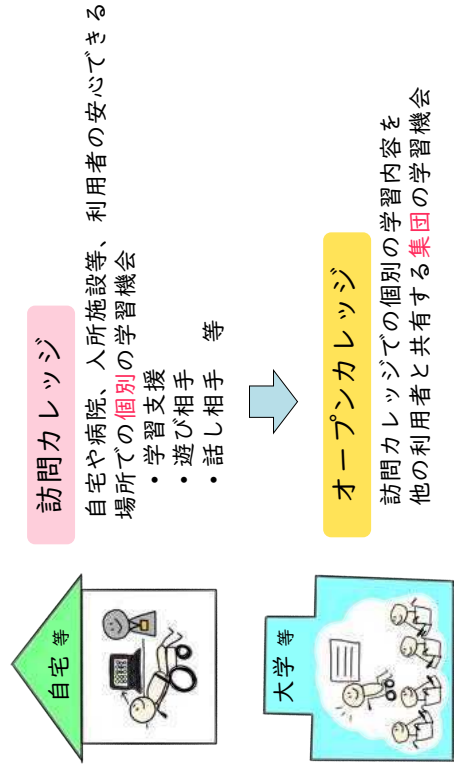
文部科学省受託事業

障害者の多様な学習活動を 総合的に支援するための実践研究

趣旨

- 平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務。
- 学校卒業後の障害者について、学校から社会への移行期や障害の各ライフステージにおける効果的な学習に係る具体的な学習プログラムや実施体制等に関する実証的な研究開発を行い、成果を全国に普及する。

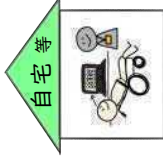
訪問カレッジ・オープンカレッジ @愛媛大学



利用開始までの流れ



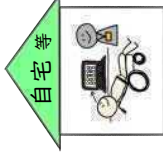
訪問カレッジ 令和元年度の取組



- 対象**
- ・愛媛県在住
 - ・特別支援学校等を卒業した18歳以上の方
 - ・重度重複障害等を理由に学習機会が無い・少ない方
- 定員**
- ・10名程度
 - 問い合わせ：13件
 - 訪問談実施：8名
 - 利用者：7名（自宅：4名、病院：3名）
- 費用**
- ・無償

5

訪問カレッジ 令和元年度の取組



- 実施期間**
- ・令和元年11月～令和2年2月
- 実施回数**
- ・1ヶ月につき1～4回まで（週1回まで）
 - ・平日または土曜日
 - ・10時～17時までの2時間が基本
- その他**
- ・学生証あり
 - ・入学式、卒業式、修了証あり（予定）

6

訪問スタッフ

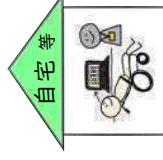
特別支援学校や福祉施設等での勤務経験者、特別支援学校の教員志望者等、障害や病気に関する知識・理解を深めている方（初心者スタッフには講習を実施）



- 問い合わせ：18件
- 登録者：15名
- ・本学生生：5名
（内、教育学部地域連携実習生：3名）
- ・理学療法士：1名
- ・寄宿舎指導員：1名
- ・保育士：2名
- ・県のシニア人材活用部署からの紹介：6名

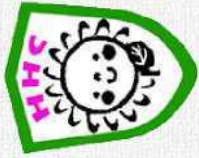
7

実施内容



- ・絵本の読み聞かせ
- ・スイッチ活動
- ・音楽活動（音楽鑑賞、楽器演奏）
- ・感覚活動
- ・視線入力装置
- ・iPadアプリを使った活動
- ・動画視聴
- ・制作活動 等

8



ひまわりHOME COLLEGE

NPO法人ひまわり Project Team

ひまわりProjectTeamの事業

重症心身障害児者の自立支援活動

ひまわりHAUS

放課後活動

アトリエひまわり

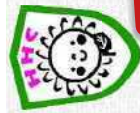
創作活動支援

ひまわりHome
College

在宅学習支援

ひまわりスポーツ
倶楽部

スポーツ活動支援



ひまわりHome Collegeの様子



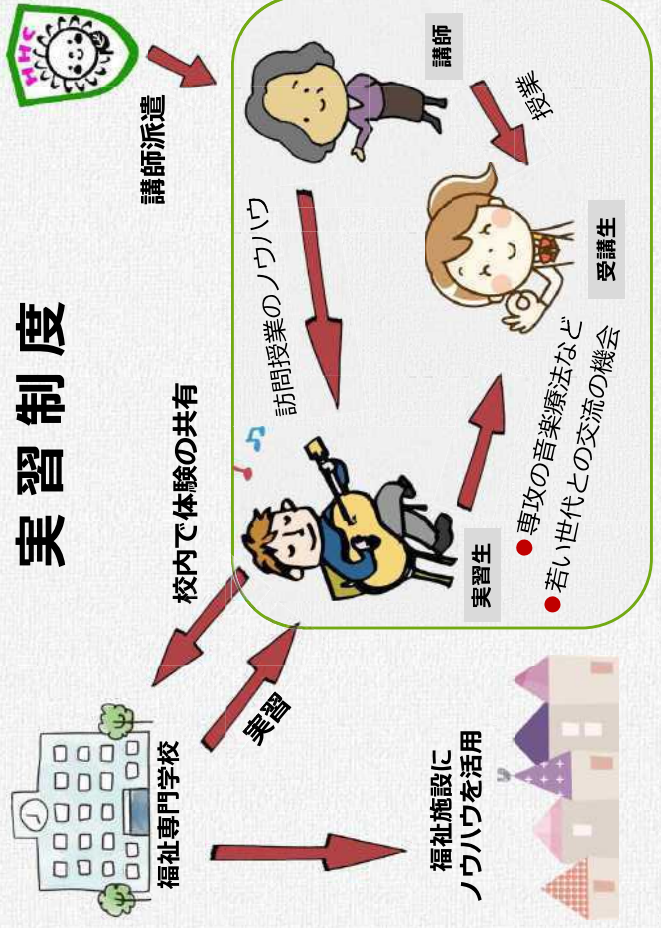
実習生と
いっしょに



ラテンダンス発表会



入学式



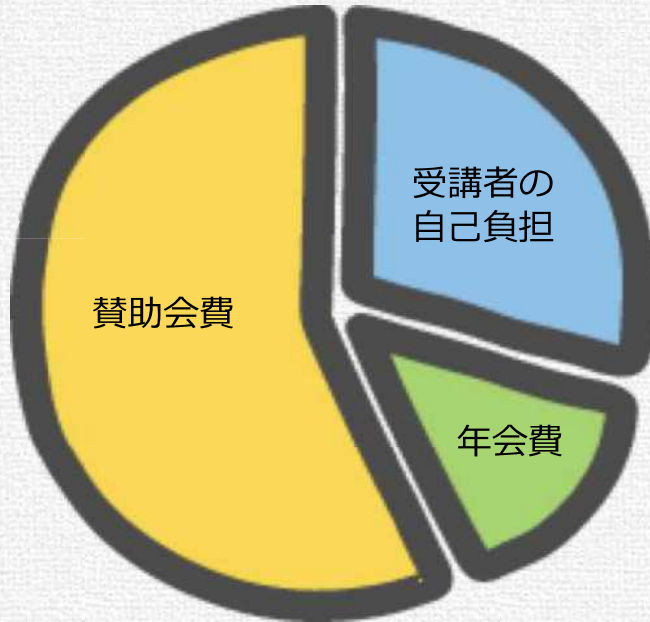


事業費の調達

一回の授業にかかる費用：講師代＋交通費



予算の内訳



NPO法人

ひまわり PROJECT TEAM

重症心身障害児者の自立支援活動

子どもたちが 末永く地域で 暮らせるよう

ひまわりHAUS

放課後活動@新宿養護学校

新宿区の委託事業である「ひまわりHAUS」は、音楽療法を始め、語学学校、動物園、出版社、友禅染師など、いろいろな分野から講師をお招きし、重症心身障害児に豊かな放課後の時間を過ごしてもらっています。学年の枠を越

わく時間



え、みんなとわく体験できる楽しいです！

ひまわり HOME COLLEGE

在宅学習支援

通所施設に通う事が困難な重症心身障害者が、卒後も生涯学習を受けられるよう月1回のペースで講師を派遣します。在宅での学習だけでなく、それぞれの興味にあった内容で講義を組みます。ダンスなど外で場所を借りての活動もあります。



アトリエひまわり

創作活動と社会参加

@シャロームみなみ風

物作りを商品販売につなげる事で、地域社会に参加して

きます。羊毛を染めてフェルトシートやフェルトボールを作ったり、い



ろいろな素材を型抜きしてパーツを作っています。売上を作業代の配布という形で利用者さんに還元し、物作りと社会参加へのモチベーションアップします！地域主催のイベントを中心に商品

を販売できる機会が少しずつ増えてきました！

ひまわり スポーツ倶楽部

スポーツの可能性発信

重症心身障害児者が身体を動かす機会を持てるよう、マラソンやス



キーなど、安全に楽しめるスポーツを探して情報を発信していきます！新宿区のスポーツ環境会議委員です！

2019年1月



e-mail: himahaus@gmail.com

http://himawariprj.wix.com/himawari2010

『訪問型の医療的ケア児者の生涯学習』の
持続可能な仕組みにむけて

話題提供

東京都日野市の

『日野市障害者訪問学級』

日野市教育委員会生涯学習課 職員 白川 和彦
日野市障害者訪問学級受講生の保護者 石坂 有香

2020年11月13日

日野市障害者訪問学級について

事業の目的

だれに:1人で外出することが困難で、義務教育や特別支援学校を卒業後も引き続き『学習したい』と意欲を持つ、市内在住及び入院中の障害者(長期間病気等の者も含む)

どんなことをする:学級生に合わせた学習機会を設け、社会参加を促進することを目的とする

日野市障害者訪問学級について

国際障害者年最初の年 1981年(昭和56年)スタート

事業スタートの経緯

- ▶ 日野市立七生中学校「訪問学級」で学んでいた生徒の「卒業後も学び続けたい」という強い希望。
- ▶ 日野市が「日野市障害者問題を考える会」に委託し「日野市障害者訪問学級」が発足

日野市障害者訪問学級について

当初は、学級生 5名、講師 7名からスタート。

令和2年4月現在

学級生 16名 (女性 9名、男性 7名)

医療的ケア.....5

肢体不自由 (車いす) 8

知的障害.....3

18歳~41歳。平均年齢28歳

平成11年4月から学び続けている方も

講師 19名 (女性 14名、男性 5名。平均年齢58歳)

これまでの学級生は延べ277名 講師は 延べ約380名

日野市障害者訪問学級について

学習内容

- * 学級生・保護者の希望で年間に1つの講座を原則として学級生宅で。
- * プールや散歩、シヨッピング、ハイキングなどの外出も。
- * 教材や内容については、学級生・家族の意向をもとに、講師の創意工夫で。
- * 受講料は無料。

日野市障害者訪問学級について

特徴

- * 学級生・講師それぞれの「横のつながり」も大切にしている
学級生1人に対して講師1人～3人で実施している。個別の活動とならないように、「交流会」や「遠足」などのイベントをおこなっている。
- * 講師養成講座を年1回実施している
年に1度、講座を開催。訪問学級のPRを行いながら新たな人材発掘をしている。

日野市障害者訪問学級について

これからの課題①

- * 講師・スタッフの拡充が必要
・学級生と同年代の講師の力が、学習意欲向上のために重要。
・市内周辺の大学に声をかけて、若い力を取り入れたい。
・特別支援学校等でかかわった経験がある講師と合わせて、市民講師の養成にも力を入れていきたい。地域で活躍している皆さんに、訪問学級への力添えをいただけないか、事業のPRをしながら依頼する。

日野市障害者訪問学級について

これからの課題②

- * 事業継続のために
現在、市の委託料から講師謝礼のほか、教材費、研修費、交流会費などを支出している。
学級生の増は講師謝礼の増となる。謝礼も市の委託料から支出しているが、限られた予算の中で、事業を継続していくための工夫が必要。現在、講師料、教材費、市としても、庁内で行われている同種事業との調整や国・都などの補助金を探し、活用するなど、事業を継続的に支援したい。

自己紹介

- ▶ 履歴
- ▶ 医療的ケア内容
- ▶ 意志の表出とコミュニケーション方法
- ▶ 特別支援学校卒業後の生活

日野市障害者 訪問学級の 授業内容

- ▶ 年間70時間
- ▶ 月に2回 1回2時間
- ▶ 担当講師 2人
- ▶ 授業内容
- ▶ お気に入りの活動

保護者から見て

- ▶ 行事が多い
- ▶ 保護者が運営に携わっている
- ▶ アナログとデジタル両方の発信

エピソード

日野市障害者問題を考える会機関紙。年3回発行。最新号2020年10月発行、第161号。行事報告、運営委員会報告、学級生紹介など

障害者訪問学級新聞
年2回発行。学級生、講師の近況報告や移動教室後の感想など

LINE
Fb

- 5月 総会
- 7月 都立八王子東特別支援学校
開放プールに参加
- 9月 移動教室
- 10月 遠足
- 11月 体育交流会
保護者懇談会
- 12月 歳末助け合いバザー参加
- 2月 講師養成講座
講師交流会
- 3月 音楽交流会
修了式

この会に入って良かったこと

- ▶ 卒業後の学びの継続
- ▶ アンケートからわかること
- ▶ じっくりした関わり
- ▶ スイッチ類のお試しやアドバイス
- ▶ 人とのつながり
- ▶ 自粛中の活動

このようなことを 学んでいます

読み聞かせ
書道
漢字や文字
スイッチ
iPad等のコミュニケーション支援
選択すること
ルール
散歩
外出支援
静的弛緩誘導法

アンケートの回答から (要約)

講師

- ・自分の住む地域での障書を持った方々のことがわかるようになった。
- ・同じ意思を持った方々と連絡を取り合い一緒に考えながら楽しく活動できている。
- ・教え子と再びお付き合いができるようになった。
- ・学校と違ったゆとりがあったりした関わりができて、笑顔や意欲的な気持ちに触られたとき、やりがいを感じる。

保護者

- ・子どもが活動の日を楽しみにしている。会に入って良かった。
- ・生活リズムが崩れることなく過ごし方が充実した。
- ・仲間と集まる機会が増えた。
- ・家族だけでは難しい遠出や体験をすることができた。
- ・家族以外の人と外出できるようになり、行動範囲が広がった。
- ・知り合いが増えた。
- ・応援メッセージや学級生の活動などを動画で子どもと一緒に見て刺激を受けた。
- ・グループLINE等で情報交換ができたこと (災害時にも心強かった)

障書訪問学級のスタートのきっかけとなる学級生の声を紹介します

「日野市障書訪問学級10年のあゆみ」から一部抜粋

勉強とは

勉強とは自分から進んでするものであり、決して押し付けられたり、いい成績を取るためにするものではない、という事です。それに気がついてから、僕は勉強に興味を持つようになり、勉強する事が生きがいになり感じるようになりました。そして、毎日の生活が活気に満ちあふれ、充実した日々が過ごせるようになって来ました。しだいに今では常識となっている高校卒業程度の学力を身につけるまでは勉強を続けよう、と思うようになったのです。

1980年2月

Kさん (難病。男性)

学ぶ
生きる

まとめ

シンポジウム テーマ
「訪問型の医療的ケア児者の生涯学習」の
持続可能な仕組みに向けて

いのちと向き合い、いのちを輝かせ、懸命に学ぶ「訪問カレッジ」の学生には、人を動かす力があります。私たちは、「もっと学びたい！」「学びは楽しい！」との声に動かされて、今日まで歩んできました。「学び」を通して、「夢」を実現していることに、感動しています。今、直面している課題は、安定した運営資金と人材の確保です。更に、生涯学習のニーズの高まりに応じて、拡充が必要です。そのために「学びの履歴」を証明する持続可能な仕組みを創る必要があります。本日は、シンポジストの方々から、継続性・発展性のある方策に向けて、提言していただきます。

訪問カレッジの活動の成果(9年間)

- ①学校時代に身に付けたことを、ゆっくりと、自分のペースで、時間をかけて、その人らしさを育てている。
(ゆっくりした時間軸で展開)
- ②何歳になっても、緩やかではあるが、成長・発達し続けている。
(ライフステージに応じたキャリア発達)
- ③授業が始まると、学校時代に蓄積した力を発揮し、顔が輝き、笑顔一杯になる。
(「学ぶことは生きる喜び」の表出)
- ④一週間に一度の訪問であっても、その日を心待ちにし、生活リズムを整えている。
(回数だけでない、学びの質が大切)
- ⑤筋緊張や拘縮を予防する、身体が取組が必須である。
(個に応じた学習プログラムの設定)
- ⑥生命と向き合い、その力を精一杯発揮できる「時」は、かけがえのない生命輝く時間である。
(存在感・価値観の醸成)
- ⑦学習支援員にとっても、生涯学習の機会である。(家族への支援・協力)

文部科学省 令和2年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
 ～第1回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム～

シンポジウム

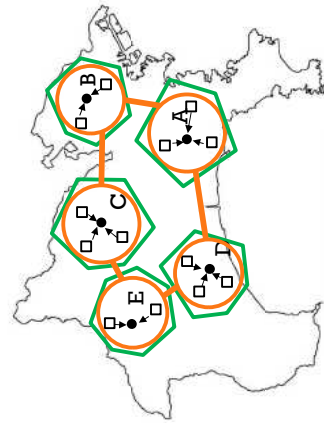
訪問型の医療的ケア児者の生涯学習

神奈川県全体への 広がりの仕組み

大学との連携

NPO法人フュージョンコムかながわ
 ・ 県肢体不自由児協合理事長 成田裕子

神奈川県全体への 広がりの仕組み



- ①「訪問カレッジenjoyかながわ」
 ↳ 県全体専業モデルを広げたい
- ②仕組み
 ひとりのニーズに
 対応する → この連続で卒業を
 発展させる
 ・ 同じ内容を拡大するのではなく
 一人ひとりのニーズ・状況に応じ拡大
 チームをつくる
 (学生を中心に
 地域の支援員と)
 ・ チーム制の効果(学習内容や係わりが
 広がる、仲間に入りやすい)
 ・ 地域の人材や社会資源を活用しやすい
- ③行政に相談して、広がりの支援・示唆を頂く
 ・ 県・市町村の生涯学習課と連携する
 生涯学習の資源状況を伺い、私たちの活動の今
 後の発展について示唆をいただく

大学との連携

〈現在の活動〉

- ゼミの学生に訪問カレッジの概要や実際の学習の様子を紹介し(10/19,11/30)、
 学生自身が「どんな形で参画していくか」検討中である。

〈今後〉

- 訪問カレッジの学生・保護者の反響が大きく、期待を寄せられている。
- 大学生と一緒に訪問することができれば、カレッジの学生の学びに更なる広がりが
 生まれ、学習支援員や大学生にも学びになる。
- 大学生の存在が、学習支援員の人員補てんにもなる。
- 大学がICTなど新しい学習支援教材等の支援員の研修場所になる。
- 大学側と調整がつけば、大学生と一緒に学習展示(祭)やスクーリングの場になる。

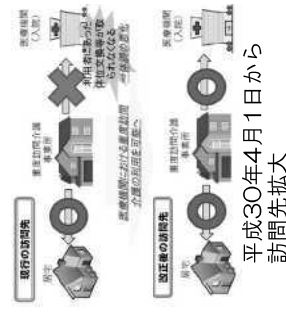
退職教員の学習支援員と学生との
 年齢のギャップを埋められないか!!
 ・大学生にとっても貴重な
 体験になる

訪問力しっじ@希林館を始めた理由

- 「日中活動」と「居住支援」を分離
(障害者自立支援法(2006年)から導入)
- 日中は住まいの場から離れ、活動する
場所(通所施設)に通えた方が良い。
→しかし、通えない人もいる
- 学校教育の通学(Schooling)と訪問
(Visiting)のような2つのシステムは
年齢を問わず必要ではないか?
→しかし、今ある制度で活用できるのは…
→福祉制度しかないのです…

重度訪問介護(障害者総合支援法)

1. 対象者:
重度の肢体不自由者又は重度の知的障害若しくは精神障害により行動上著しい困難を有する者であって、常時介護を要する障害者
 2. サービス内容:
居宅における
 - 入浴、排せつ及び食事等の介護
 - 調理、洗濯及び掃除等の家事
 - その他生活全般にわたる援助
 - 外出時における移動中の介護
- ※ 日常生活に生じる様々な介護の事態に対応するための見守り等の支援を含む。



重度障害者等入院時コミュニケーション支援事業 (障害者総合支援法 地域生活支援事業)

- ① 目的: 重度の障害のある方が入院し、入院先医療機関のスタッフとの意思疎通が十分に図れない場合に、コミュニケーション支援員を派遣し、ご本人と医療機関のスタッフとの円滑なコミュニケーションを行うよう支援
- ② 対象: (1)意思疎通を円滑に図ることのできない、65歳未満で手帳を取得した全身性障害、知的障害、精神障害児・者及び区長が必要と判断した方(2)障害福祉サービス等を利用していている方(3)入院先の医療機関の了解を得られる方
- ③ コミュニケーション支援員: 日常的にご本人の支援に関わっているヘルパー、通所先の職員、グループホームの職員、入所施設の職員、地域活動ホームの職員 等。
- ④ 派遣時間数: 1回の入院につき150時間以内(月制限なし)

カーテンの開け閉めを…親の切なる思い

運営上の課題 持続可能な方法の検討

- 福祉事業における限界
訪問介護や生活介護通所など福祉体系の事業には、学習等の名称を使えない。
- NPO法人療育ねっとわーく川崎
 - 学びの作業所
 - 私立特別支援学校と鳥取大学付属特別支援学校は2年間の専攻科設置。大部分の都道府県の知的障害特別支援学校には専攻科はない。
 - 近年、和歌山県をはじめとして「学び直球勝負の作業所」が設立されるようになって①特別支援学校自立活動指導員(外部専門家)の講師費用の活立訓練事業として社会生活を身一つにつけるための学習の場として位置づける基金の設立



障害者の権利に関する条約 平成26年1月20日批准

「教育分野からの生涯学習」
に向けた追い風

第24条 教育

1 締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度 (an inclusive education system at all levels) 及び生涯学習 (lifelong learning) を確保する。当該教育制度及び生涯学習は、次のことを目的とする。(以下、略)

運営上の課題 持続可能な方法の検討

◆ビジネスモデルの構築

- <支出>
 - ・ 学習支援員：1回の訪問に3000円支給
 - ・ 損害賠償保険
 - <事務>
 - ・ 契約・税金などの手続など・事務所経費
 - <収入>
 - ・ 学生からの年会費1万円
 - ・ 賛助会員の会費
- 大赤字 → 福祉制度？
→ 都立特別支援学校の外部専門員の報酬の活用

運営上の課題 持続可能な方法の検討

現行制度の活用…活用中

在宅心身障害者等緊急一時保護事業

- ① 目的：在宅の心身障害者等を介護している保護者の方が病気等の理由により、家庭での介護が困難となった場合に、介護人(登録している介護人)が一時的に保護することにより、これらの心身障害者の福祉の向上を図ること
- ② 対象：身体障害者手帳1から2級の方、愛の手帳1から4度の方
- ③ 場所：介護人の家庭、またはこの目的を達成するために特に必要が認められるものに限ります。なお、地域デイサービス事業にこの制度を利用することができません。
- ④ 介護の期間：月3日以内 (自治体による)

訪問型の保育・療育・教育等

就学前	福祉	居宅訪問型保育	平成27年度～
	福祉	居宅訪問型 児童発達支援	平成30年度～
学齢期	教育	訪問教育	昭和54年度～
	福祉	居宅訪問型 児童発達支援	平成30年度～
学校 卒業後	教育	青年学級 (訪問)	自治体事業
	教育	訪問型生涯学習	民間 (法定外)
	福祉	生活介護事業所からの 居宅訪問	自治体・法人

第1回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム

「大学校」が目指す 重度障がい者の学び

みんなの大学校 引地達也
2020年11月13日



支援が必要な人の学びの場
全国どこからでも
ウェブでつながるコミュニティ



講座 コミュニティ



五つの専攻科長、アロン・チン（学長）
林眞理子（学務部長）、教授田中孝典（学務部長）
藤原悠（学務部長）、田中孝典（学務部長）

ホームページ <http://www.minnano-college-of-liberalarts.net>
問い合わせ メール：info@minnano-college-of-liberalarts.net 電話：070-3166-1616

8月1日カリキュラム発表
学生募集、法人登録開始

対象の学生
支援を必要とする18歳以上の方（障がい者手帳の有無は関係ありません）

カリキュラム

- ・講義
- ・学生談話室
- ・音楽ライブ
- ・研究会
- ・楽しいスクリーンレージョン



医療的ケアの必要な人へ
週一程度程度の訪問講義
二泊三日に亘じた「学びの場」
NPO法人地域ケアさぽーと研究所と連携



訪問型



通学型

通学での学び+学校をつくる
就労移行利用者の参加・聴講
聴講生の参加
オープンキャンパスの実施



連携型

遠隔地をつないでの定期講義
交流も活発化させる
1年目は名古屋と新潟
2年目以降の拡充を見据える

みんなの大学校
講義系/学び・公開講座
サークル室・学長室
→すべて双方向性確保
管理系/登録・履修確認・入試手続き
情報発信系/各種発表

ライブを配信・ウェブでの講義
室をライブハウス仕様にも展開

講義・各種参加・単位・修了証

登録医療施設
登録福祉事業所
聴講生

登録
講義・講座・イベント

登録
講義・講座・イベント

受講・レポート

講義・各種参加・単位・修了証

講義・各種参加

大学校を全国に発信、学生のケアアートを「ケアメディア」で発信

みんなの大学校
Minnano College of Liberalarts
-学び、で君が花開く-

みんなの大学校カリキュラム

同時性の確保

- 今、いっしょに「いる」ということ
- 人とのコミュニケーション状態からの学び

カリキュラム みんなの大学校講義室

<https://minnano-college-of-liberalarts.net/lecture-room/>

是非、のぞいてみてください！！

講義

山本登志哉 「発達心理学」

アルン・デゾーサ 「哲学」

内村治 「人と経済」

下川正洋 「特別ニーズ教育」

引地達也 「健康と社会」



時間	月	火	水	木	金	土
1000-1050						イベントを適時開催してまいります。詳細はHP及びメールでお知らせします
1100-1150	健康と生活 引地達也		発達心理学 山本登志哉	メディア・選 隔 講 義 引地達也		
昼休み				みんなまで風こぼん 引地達也		
1300-1350	就労移行プログラム シヤローム和光		特別ニーズ教育 下川和洋		学生の会	
1400-1450				経済と生活 内村治		
1500-1550					哲学 アルン・デゾーサ	
1600-1650	学生の会					
1700-1750					ポリフォニープログラム ポリフォニー	
1800-1850						ケアステージHUG
1900-1950						ケアステージHUG

アクティブレクチャー
就労移行支援事業所シヤローム和光
「就労に向けて」

リカバリーカレッジポリフォニー
「自分のトリセツ」

引地達也
「いっしょにランチミーティング」



ケアステージHUG

毎週木曜日夜のプログラム
プロのアーティストが演奏・トークを披露
歌手、演奏家、演歌、アイドル等が出演する独自コミュニティ



「大学校」としての役割

「高等」教育の提供
任意の「大学校」という仕組みは、教育のレベルを保証



受け手のレベルではなく、
教育する側のレベル
(教育の社会モデルの具体化)

- ・「高等」教育の経験者の参加を拡充
- ・枠組みの公的支援の提案

上の画面は
会話用、
下の画面は
講義



カリキュラム

基礎課程履修科目(2年)	基礎科目 / 演習(課程修了論文を含む) / 実習	62単位
専門課程履修科目(2年)	基礎科目 / 演習(卒業論文を含む) / 実習	70単位

主な教員の紹介

名前	役職等	担当科目
引地 達也	みんなの大学校長	メディア論/コミュニケーションと社会
山本 豊彦哉	発達支援研究所所長	発達心理学/芸術と社会
下川 和洋	地域ケアさざぼと研究所理事/大学非常勤講師	特別ニーズ教育
内村 治	元アロハ・トーマツ・アジア統括/国際会計士	経済と生活
アリン・ブラガ・ペーサ	上智短期大学講師	哲学
佐光 紀子	翻訳家	言語と社会
佐藤 玄	元杏林大学医学部講師	生命と社会
大槻 一敬	季刊ケアメディア副編集長	ウエブデザイン
萩原 由佳子	グループホーム運営者/スポーツメンタルコーチ	健康と生活
高橋 基成	デフサッカージャー日本代表メンタルコーチ	スポーツ実習/健康と生活
濱野 崇	グループホームサームビス管理責任者	芸術と教/文学
笹木 健吾	ピア/コーラスグループ「サーム」リーダー	芸術と音楽
林 真理子	ピア/コーラスグループ「サーム」ピアニスト	やさしいビジネスマナー
田中 英	ビジネスマナー講師	メディアと社会
	東京大学大学院博士後期・日本学術振興会	



連携機関と共同研究校

<連携機関>
 ケアメディア推進プロジェクト / 一般財団法人発達支援研究所 / NPO 法人地域ケアさぼと研究所
 障がい者雇用支援センター / 一般財団法人福祉教育支援協会 / 精神科ポータルサイトサイキエ
 <共同研究校>
 見晴台学園大学 / 福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ



みんなの大学校

-学び、で君が花開く-

Minnano College of Liberalarts

学校案内



どこでもつながる、



支援が必要な人のための学びの場。



〒185-0011 東京都国分寺市本多2丁目1-4

Tel : 070-3166-1616

E-MAIL : info@minnano-college-of-liberalarts.net

HP : https://minnano-college-of-liberalarts.net

みんなの大学校



みんなの大学校とは - どこでもつももなる、支援が必要な人のための学びの場 -

各種障がいのある方や疾患等で支援が必要な方のためのウエア上を基本とした「学びの場」です。18歳以上の方で障害者手帳をお持ちの方でもそうでない方も「学びたい」お気持ちのある方が入学対象です。
国が行う福祉サービス事業でもなく、公的な教育事業でもありませんが、現代の支援が必要な方の学びたいというニーズを研究し、新しい学びの形を実践する中で、生まれた新しい学びの形です。
提供する学びは「高等」教育機関として、ケアの思想を備えた深い広い教養を目指します。



提供する学びは「高等」教育機関として、ケアの思想を備えた深い広い教養を目指します。
ウエア上でつももなり、学び、時にはスクーリングで交流をしながら、教員と学生、スタッフやボランティアが交じり合いながら、共生社会における「インクルーシブ」な学びを実現していきます。



ごあいさつ

未来を拓く学びを共に

どんな人にとっても「学び」は、多くの可能性を開いてくれます。新しい何かを知ること、これまででは違った世界が見られたり、今までになかった自信につなげられたり、心が強さづけられるような感動に打ち震えたり、それは私たちに生きる喜びや楽しさも与えてくれるものです。

この「学び」は誰もが生涯を通じて行われるのですが、「学び方」「学びの面白さ」を知るには「学びたい」と交わり、何かをつかみたい、という思いも「学びたい」気持ちの「つど」だと考えます。その「学びたい」から、社会や他者と交わり何かに気付きながら、友達と語り、一緒に何かに挑戦し、そして失敗を重ねながら、また一つ学んでいくのだと思います。

それは一生懸命学び、挑戦してこそ、美しい「青春時代」となります。みんなの大学校では、そんな新しい「青春時代」の舞台として、学生と社に成功と失敗を分かち合ひながら、一緒に学んでいきたいと考えております。青春時代の挑戦は、いつの間にか自分を成長させ、自分に進むべき社会を開き、そして開かれる日へとつながっていきます。

みんなの大学校では新しい学びの形を目指し、学生と生徒や教員、スタッフ、地域のみなさんがともに青春を分かち合い、手を取り合って歩んでいきます。
みなさんが未来を切り開くために、みなさんの未来が拓かれるために。さあはじめましょう。



みんなの大学校 学長
引地達也



みんなの大学校
学生委員長
水越真哉

◆◆大学校理念

学生の「学びたい」という思いを尊重し、質の高い「大学教育」を提供し、学生の特性を勘案しながら、学びへの自主性を促し、個人の可能性を開くことを教育の基本方針とする。ウエアでつももなる新しいつももなる基本としながら、学生同士がコミュニティを形成し、地域社会と協力しあい、社会の中での確立役割を果たせるよう研鑽を積み、信頼と実績を重ねていく。

◆◆教育方針

- 学生がひとり一人の特性を受け入れることを前提に、以下の点を留意していく。
1. 技能の取得を目指すのではなく、青年期の人格形成を目的とする
 2. 課程科目の内容は学部の主旨に沿った上で、多様な学習内容から構成する
 3. 授業及び活動が習得しやすい、時間枠で維持する
 4. ウエアでの利点を最大限に活用し、多くの「学びたい」に対応するよう力をつける
 5. 訪問型に関しては学生の学びたい意向を汲みながら個別の対応をする

カリキュラムは大学に準じた単位制とし、講義担当や判定者は高等教育機関での教育経験者並びにそれに準ずる者が行うこととする。

◆◆様々な学びの形

◆ウエア通学型
定められたカリキュラムに則ってウエア講義とスクーリングで学ぶ「通学」型で単位を取得し課程の修了を目指す

◆訪問型
重度障害者向けに教育提供者が自宅や医療施設等に訪問して講義や学習を行い、ゆとりとしたペースで単位を取得し修了を目指す

◆連携型
本大学校と連携する全国各地の支援が必要な方の学びの場を連携でつないで共同の講義で交流をしながら学びを発展させていく

◆◆教育の特徴

- ウエアでの学習でも双方向性を意識したアダプティブラーニングによる深い学びを目指す
- ◆教員とスタッフ、地域との対話を多用しコミュニケーション能力の向上を重視する
 - ◆世の中の仕組みなどを体感できるフィールドワークを多く取り入れ、学びの多様性を実践する
 - ◆修了後は就労支援の実績を活かし関係機関と連携し「就職活動支援」を充実させる

◆◆学部・学科：教養学科社会教養学科

人文系系の基本学習を中心に人間が集まる社会における事象についての探求を目指す学科

- ＜基礎課程＞
学習の初期段階として、教養の基礎要素である言語や芸術等について学習し、学び方を知り、自主的な学習を体感していく課程である。
- ＜専門課程＞
基礎課程で得た学習方法を使い、人文系領域での専門的な知識を得ながら、自己の関心を学びへとつなげ、「論文」の形で発表する。



学生の声

知識とは、学問とは、自分とは

みんなの大学校の前身であるシャローム大学校で学生委員会、委員長をさせて頂いてきた2年生です。このたびオンラインによるリアルタイム講義が始まるにあたり学校の事、感想など思うところを書かせていただきます。

シャローム大学校は、「学ぶことに支援を必要とする人達に学びの場を」を目的に作られました。様々な事情を抱えた人と、共に学んでいく場です。そのため、かえって自分の辛さや苦しみなどを見つめ直すことが出来るのではないのでしょうか。

私の場合は、過去の出来事に捕らわれ、歳も40代半ばですがこの学校で学ぶことを決めて、「迷い」から、だんだんと目標、目的が見え始め、今は前を向けてはいるつもりです。過去から抜け出し進み始めることができたのは、やはり行動していたことだったような気がします。人と接し、社会と触れ合うことによる様々な気づき。教養を深めることによる視野の広がりが役に立っています。「自分だけが」、の思いから解放され自由な気持ちになることがまず初めのもっとも大切なことだと感じます。その先の世界は見晴らしの良いものでした。この学校はエンターターである福祉と、社会の中間地点として極点となっていてくれます。

知識とは、学問とは、自分とは、と思いをめぐらし歩みを進めるのに私には必要な場所として欠かせないものになっています。これからはもう一歩、見えるものがクッキリとなるように努力を怠らないようにしています。

「第1回医療的ケア児者の生涯学習を推進するフォーラム」アンケート（2020年11月13日）

本日はご参加ありがとうございました。アンケートへの回答をお願いします。

回答方法は

①Webのフォームで回答する <https://forms.gle/G23eQHgigtzdAkeh9>

又は右の2次元バーコードでフォームにアクセスしてください。

②以下の内容をメール（info@minnano-college-of-liberalarts.net）で回答して送信する



*****以下、アンケート内容*****

午前の部「訪問型の医療的ケア児者の生涯学習の実践と課題」について

質問1 内容はいかがでしたか？（番号に○をつけてください）

1 大変よかった 2 まあよかった 3 どちらでもない 4 あまりよくなかった 5
よくなかった

質問2 上記の回答の理由やご意見を自由にお書きください。

午後の部「『訪問型の医療的ケア児者の生涯学習』の持続可能な仕組みにむけて」について

質問3 内容はいかがでしたか？（番号に○をつけてください）

1 大変よかった 2 まあよかった 3 どちらでもない 4 あまりよくなかった 5
よくなかった

質問4 上記の回答の理由やご意見を自由にお書きください。

質問5 そのほか、ご意見などご記入ください。

任意記入欄です 居住の自治体 職業 年齢 男・女